



ボクが住んでいる
「空に近い町」
富山町です。

棚田のまち富山に 地域おこし協力隊 竹内隊員が着任

地域の元気をサポートします

4月から富山町に地域おこし協力隊員が着任。町の活性化に向けた取り組みのサポートをしています。

住んでいてよかった ——の声が聴きたい

地域おこし協力隊
竹内恒治隊員

眼下に広がる棚田を見て、すぐに「この町に住んでみたい」と思いました。

まだわからないことだらけですが、いつの間にかいることが当たり前になるくらいに、この町に馴染めたらいいなと思っています。

私の仕事は、富山町の皆さんの「アレをしてみたい」という声を実現するお手伝いをする事です。

そして、皆さんから「富山に住んでいてよかった」という声が聴けるよう活動していきたいと思っています——人を呼び込むことだけでなく、ここに住んでいる人々が楽しく過ごせることが大事だと考えているからです。

地域活性化について様々なご意見、ご要望があるかと思えます。ぜひ、お話を聞かせてください。未熟者ですが一生懸命、取り組みたいと考えています。皆さんよろしく願います。

協力隊員のブログは市の定住サイト「どがどが」から、フェイスブックは市の公式ホームページからも閲覧できます。

大田市は、4月から市内初の地域おこし協力隊員として、県外の若者二人を採用しました。現在、一人は市観光協会、もう一人は富山町に配し、活性化に向けた地域の取り組みのお手伝いをしています。

その一人、富山町の協力隊員として着任したのが、愛媛県今治市出身の竹内恒治隊員(33)。富山まちづくりセンターを拠点に、地域おこしに奮闘中です。

富山町は和牛の繁殖などの畜産業と、稲作を中心とした農業が主な産業です。特にお米は評価が高く、全国ネットのテレビ番組で紹介されたほどです。

今、富山ではこれらの特産品のブランド化に取り組んでいます。そして、これを支援してもらおう協力隊員を迎えるにあたり、富山町の15の団体で「地域おこし協議会」を組織。ともに地域活性化に向けた取り組みを行うことにしています。

竹内隊員は「今度、牛の出産にも立ち会わせてもらうことになりました。皆さん熱意があり、そしてとても親切です。期待にこたえられるよう頑張ります」と目を輝かせています。

また、地域の情報発信も特産品のブランド化に並ぶ重要な任務。すでにブログやフェイスブックを開設するなど、富山発の情報を全国に発信しています。

富山に住みはじめて約2か月、今ではすっかり地域に溶け込んでいます。「近所からおかずのお裾分けがあったり、畑作りの指導を受けたり、地域の人から気軽に声をかけてもらえるようになりました」とうれしそうに話しています。

隊員の任期は1年。最長3年まで更新できます。市では、任期終了後もこの町で定住してもらいたいと考えています。